

## 2008年3月期 通期決算 FAQ

### 1. 今年度の業績見通しはどうか？

A1：今年度の半導体売上高は前年比約1%減の6,500億円を見込んでおります。これは、半導体の出荷数量は増加するものの、円高の影響により売上高の伸びが抑制される見込みによるものです。損益面では、工場の稼働率上昇による原価率の改善や、固定費削減など経営効率化等により営業利益で100億円（前年度比約50億円増）を見込んでおります。また、税引前利益は40億円、当期純利益は0億円を見込んでおります。

### 2. 今年度はどの程度の為替インパクトを想定しているのか？

A2：今年度の業績見通しにあたっては、1USドル100円、1ユーロ160円を前提としております。前年度の為替レートと比較すると、円高によるマイナスインパクトは、売上高で約300億円、営業利益は約200億円を見込んでおります。

### 3. 今年度の半導体売上高見込み（前年度比約1%減）の中で、どのアプリケーション（用途）に期待しているか？ また、どのアプリケーションが減少する見込みか？

A3：今年度は、「自動車および産業機器分野」、「多目的・多用途IC」「ディスクリット・光・マイクロ波」分野で前年度と比べ売上増を計画しています。具体的な製品では、自動車用途、汎用用途のマイコン、パワー半導体や化合物半導体に期待しております。また、画像処理LSI（EMMAシリーズ）やDVDドライブ向けLSIも増収を見込んでおります。一方で、大型LCD向けドライバICやデジタルカメラ向けLSIなどは減収の見込みです。

### 4. 設備投資、減価償却・リース、研究開発費の前提は？

A4：今年度の設備投資計画は600億円です。主にNECセミコンダクターズ山形の300ミリアウエハラインの能力増強や後工程の能力強化への投資を計画しております。また、減価償却費およびリース料は1,060億円で、前年比約30億円の減少を見込んでおります。研究開発費については、前年度とほぼ横這いの1,150億円を計画しております。

### 5. 第1四半期(4-6月期)の見通しはどうか？

A5：第1四半期の半導体売上高に関しては、前年度第4四半期（1—3月期）比で微増を見込んでおります。営業損益につきましては、為替の影響などがあるものの、減価償却費の減少や工場稼働率の上昇などにより原価率が改善する見込みであり、営業黒字を確保するよう着実に事業運営を行っています。

以上